

親鸞聖人の自筆にふれる

正信念佛偈

東本願寺出版

「坂東本」の特徴

親鸞聖人の真筆である「坂東本」の、親鸞聖人の思索の足跡を知る手掛かりとなるさまざまな特徴について、「正信偈」が書かれている部分を中心に注目してみましょう。

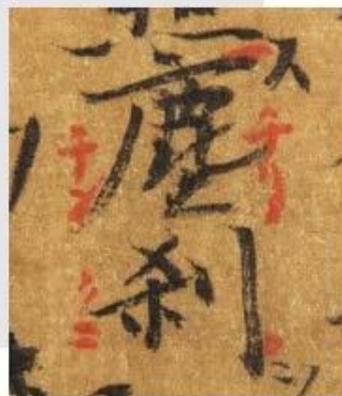
1 朱筆

「坂東本」には、本文や訓点（返り点・送り仮名・左訓等）について、墨筆に加えて、朱筆が用いられています。いったん墨筆で記された語句が朱筆で書き換えられた箇所や、また新たに朱筆で書き加えられた箇所が多く確認でき、「坂東本」の大きな特徴と言えます。



2 左訓・右訓

註記の一種で、本文の左右に、語句の説明や漢字の読みなどを記したものを「左訓」「右訓」と言います。ここでは、「超日月光照塵刹」の「塵」の右訓に「チリ」と字の意味を、左訓に「チン（ちん）」と字の音が示されています。また、「刹」の左訓には「クニ」と字の意味が示されています。



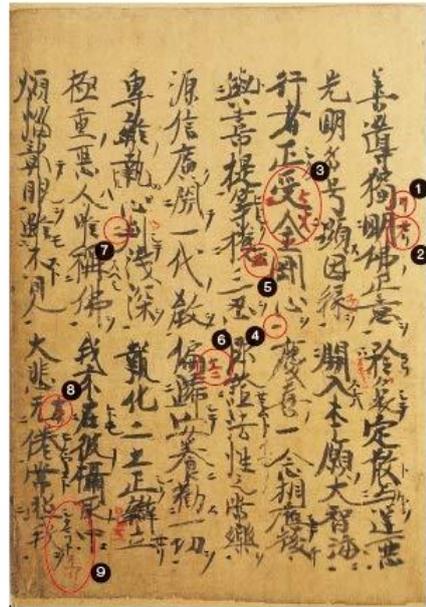
3 送り仮名

「教行信証」全体において、本文に対して送り仮名がふられています。送り仮名は、漢文（白文）で書かれたものを文章（和語）としてどのように了解するのかわかる問題に重要なものです。ここでは「涅槃を得」の「得」の字にまず、「ウ」と墨記され、その後、朱筆で「ルナリ」と追記されており、何度も推敲された様子が見取れます。



善導獨明佛正意、矜哀定散與逆惡、光明名號顯因緣、開入本願大智海、行者正受金剛心、慶喜一念相應後、與章提等獲三忍、即證法性之常樂、源信廣開一代教、偏歸安養勸一切、專雜執心判淺深、報化二土正辯立、極重惡人唯稱佛、我亦在彼攝取中、煩惱障眼雖不見、大悲無倦常照我。

翻刻



註

- ① 「リ」の訓に重ねて「リ」と朱書きする。
- ② 「セリ」の訓に重ねて「ナリ」と朱書きする。
- ③ 「ケシメ」の訓に重ねて「ケシメ」と朱書きする。
- ④ 「二」の返点を重ねて「三」と朱書きする。
- ⑤ 「一」の返点を重ねて「二」と朱書きする。
- ⑥ 元の訓を「エ」と改め、さらに「エ」と朱書きする。
- ⑦ 「リ」の訓を「エ」と改めた後、さらに「エ」を「エ」に朱書きする。
- ⑧ 「シテ」の訓を「ナク」と改めた後、さらに「ナク」を「シテ」と朱書きで改める。
- ⑨ 「シタマフイヘリ」の訓を重ねて「シタマフイヘリ」と朱書きする。

書き下し

善導獨り仏の正意を明らかなり、定散と逆惡とを矜哀して光明名号因縁を顯す、本願の大智海に開入すれば行者正しく金剛心を受けしめ慶喜の一念相應して後、尊提と等しく三忍を獲、即ち法性の常樂を証せしむといえり、源信広く一代の教を開きて、偏に安養に攝して一切を勧む、專雜の執心、淺深を判じて報化二土正しく弁立せり、極重の惡人は、唯仏を稱すべし、我亦彼の攝取の中に在れども煩惱障を隔て見すと雖も、大悲無倦こと無くして常に我を照らしたまうといえり。

『親鸞聖人の自筆にふれる正信念仏偈』

出版社 東本願寺出版

この書籍は、親鸞聖人の自筆として国宝指定されている『教行信証』の坂東本です。本書はそこから真宗門徒のお勤めとして親しまれる「正信偈」の全文をオールカラーで掲載しています。朱書きや墨で塗り消してからの修訂など、自筆でなければ見ることの出来ない思索の跡をとおして、親鸞聖人のお心にふれる1冊です。